

WEEKLY SIGNAL

平成31年3月22日(金) 1467号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/25(月)	3/26(火)	3/27(水)	3/28(木)	3/29(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	△ 400	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 22,700	+ 6,000	△ 4,000	+ 21,000	+ 11,000
資金需給	+ 22,300	+ 6,000	△ 4,000	+ 20,000	+ 10,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M)		国債発行(40年)	年度末諸払い	年度末諸払い
オペ期日	共通担保(全店) △ 4,800 CP等買入 △ 800 国債補充供給 + 900				
オペスタート	共通担保(全店) + 5,100 社債等買入 + 800 ETF買入 + 400				
(日本)	原田日銀審議委員、講演(都内) 日銀 営業毎旬報告 (3月20日現在)	金融政策決定会合における主な意見 (3月14・15日分) 企業向けサービス価格指数(2月)			完全失業率(2月) 有効求人倍率(2月) 消費者物価指数(都区部、3月) 鉱工業生産指数(2月)
(海外)	米 シカゴ連銀総裁、講演 米 フェデラルリザーブ連銀総裁、講演	米 ホストン連銀総裁、講演 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演 米 住宅着工件数(2月) 米 消費者信頼感指数(3月)	米 カンザスシティ連銀総裁、講演 米 貿易収支(1月) 欧 ドライ ECB総裁、講演	米 中間僚級貿易協議(北京、29日まで) 米 クオールズFRB副議長、講演 米 ボウマンFRB理事、講演 米 クラリダFRB副議長、講演 米 セントルイス連銀総裁、講演 米 GDP(4Q、確定値) 米 新規失業保険申請件数 (23日終了週) ユーロ圏 マネーサプライ(2月)	米 ミシガン大学消費者マインド指数 (3月、確定値) ユーロ圏 CPI(3月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初377兆5,700億円から始まり、20日には、国債の大量償還等により、388兆円台まで増加した。その後も国債買入オペを主因に増加し、週末には388兆4,000億円となった。
無担保コールON物は、新積み期間に入り、ビッドサイドが慎重な動きとなったことから、前週に比べ弱い地合いとなった。同加重平均金利は△0.061~△0.051%のレンジで推移した。
ターム物は月内の1W物を中心に△0.030~△0.025%のレンジで取引された。
FRBは19、20日にFOMCを開催し、政策金利を据え置いた。FOMC参加者による政策金利見通しは引き下げられ、2019年内の利上げの見送りが示唆されたほか、9月に保有資産の圧縮を完全に停止することが決定された。
来週の主な予定は、国内では日銀の原田審議委員の都内での講演(25日)や、鉱工業生産の公表(29日)、海外では北京で米中間僚級貿易協議(28日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.20 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約9,100億円で、週間償還額(約9,400億円)に対しほぼ横這いとなった。発行市場は、5・10日発行やショートターム物の発行等で、大型案件が散見された。市場残高は、22日に19兆5,205億円となったが、20日現在では若干増加し19兆6,700億円弱となっている。発行レートは、投資家・ディーラー等の積極的な購入ニーズから、0%からマイナスでの出会いとなった。
来週の償還総額(3/25~3/29)は、月末日の約4兆1,000億円を含み5兆4,800億円程度となっている。発行市場は、一般事業法人の有利子負債の削減ニーズから大幅に減少するだろう。月末発行残高は、16兆円台後半を予想する(2月末残:20兆6,830億円)。発行レートは、0%からマイナスレートでの出会いとなろう。CP等買入オペが、26日に3,500億円でおファーされる予定となっている。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は強含む展開となった。22日入札の3M822回債は最高落札レート△0.1824%(前回債△0.1358%)、平均落札レート△0.1958%(同△0.1437%)と前回債から低下。セカンダリー市場では3M物は△0.189%程度、1Y物は△0.198%程度となっている。
来週は国庫短期証券の入札予定はなし。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.10%~△0.11%から始まり、週央にかけて△0.13%~△0.15%まで低下した。短国3Mの発行日となる25日受渡しも水準は大きく変わらず、△0.13%~△0.145%が出合いの中心となった。

SC取引では10年353回債のbidが多く、国債買入オペがオファーされた22日受渡し以降△0.15%~△0.16%で多く取引された。

その他2年396・397・398回債、5年136・137・138回債、10年340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年163・164・165・166・167回債、30年59・60・61回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。